

第54回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

家族の健康と生命保険

福島県 郡山市立郡山第七中学校 一学年

割谷 理子

「じいちゃん分かる？理子だよ。手術終わったよ、目を開けてみて。」

私は手術を終え、集中治療室に入室した祖父の手をぎゅつと力を込めて握りしめた。そして、胸の奥から今まで我慢してきた様々な感情が込み上げ、思わず涙がこぼれ落ちそうになるのをぐつとこらえながら、精一杯明るい声で声をかけた。

私の祖父は、今年の二月にガンと告知された。『いつも元気な祖父がガン？』私は信じられなかった。『なぜ？』という言葉が頭の中を駆け巡った。

私の母は看護師をしている。祖父の病気については、ほとんど母がキーパーソンとなって医師の説明を受け、祖父をはじめ家族全員に分かりやすく話をしてくれた。当時小学六年生の私にも、決して隠すことなく全てを教えてくれた。いつも心配そうにしている私に、

「じいちゃんのために頑張ろうね。必ず治るんだから。理子の笑顔が一番の薬だよ。」

と、元気づけてくれていた。

母の話によると、祖父のガンは悪性度が高く、命に関わる危険があるそうだが、しかし、治療の選択肢はたくさんあって、治療によってはガンの根治も可能であるということだった。

治療の選択肢とはなんだろう。ガンを治すのは手術ではないのか。色々な疑問が浮かんできたのを、今も鮮明に覚えている。難しい専門的なことになるが、現在のガン治療には手術のほかに、抗ガン剤治療や、化学療法、また放射線治療というものもあり、この中には陽子線や重粒子線という特殊な先進医療があるということを母が教えてくれた。

『いったい祖父はどうなってしまうのだろう。今はこんなに元気な祖父は死んでしまうのか。治療は大変そうだし、痛みはないのか。それに、数えきれない程の検査を繰り返し、何日も通院しているが、お金はどの位かかっているのだろうか。』

母は心配ないよと言っているが、本当に大丈夫なのか不安で仕方なかった。

そんな私の気持ちに母はすぐ気づいて、今まで以上に更に詳しい話をしてくれた。

「ガン保険を知ってる？コマーションでも見たことあるでしょう。じいちゃん

はちゃんとその保険に入っているの。だから、これからどんな治療が始まっても、何回病院に通院しても安心。何百万円もかかる先進医療だって、保険会社が支払ってくれるから、すぐに受けられるんだよ。理子や家族のために、じいちゃんも考えていてくれたんだね。病気のことは先生にまかせて、理子はじいちゃんが安心出来るように応援してあげて。それが一番。」

あれから半年が過ぎ、手術が成功した祖父は毎日元気に過ごしている。幸いにも、全身へ転移しておらず、ガンだけを切除することが出来たのだそうだ。しかし、定期的に通院し検査は何年も続けなければならぬ。再発の可能性があるからだ。心配は残っているが、祖父は笑ってこう話している。

「備えあれば憂いなしとはよく言ったもんだ。保険に入っていて本当に良かったよ。理子の顔が見られなくなるところだったからな。みんな本当にありがとう。」

祖父は現在も、ガン保険のおかげで安心して治療に専念している。もし保険に入っていなかったらと思うとぞっとするそうだ。

人は皆、自分だけは大丈夫と思いがちである。でもいつ災難が降りかかってくるか分からない。その日に備える意味でも、保険は本当に大切だと実感した。もしもの時のために保険はみんなに入ってもらいたいと思っている。

中学生になった私には目標がある。それは母と同じ看護師になることだ。保険も大切だが病に苦しむ人達の力に少しでもなれる、優しい看護師になると心に決めている。そして、祖父の力になってあげたいと思っている。